

農 林 水 産 大 臣 賞

受 賞 者 ^{かん} 閑 ^{えん} 援 ^{たい} 隊
(栃 木 県 佐 野 市)

【 より暮らしやすいカンマを目指した地域活性化の活動 】

1 取組の動機と背景

佐野市閑馬地区は、少子高齢化に伴う農業の担い手不足や、鳥獣被害の影響などによる耕作放棄地の拡大、太陽光発電施設の建設増加など、大きな状況変化の中にある。

一方で、自然が豊かで佐野市中心部からも自動車ですぐと交通の便が良い地域であり、地元産木材を使用した旧閑馬小学校があるなど、自然に囲まれてのびのびと子育てできる環境に魅力を感じ、首都圏をはじめとした地域外からの移住者も増えている。

こうした中、閑馬小学校の令和2年3月での閉校が平成27年に決定したことから、小学校の活用について地元の意見を反映し「子供たちが将来戻ってきたいと思える地域づくり」に取り組もうと、農業に限らず地区の環境を維持する組織を作る検討を始めた。

平成29年に「閑馬小学校の跡地利用を考える会」を設立したが、意思決定に時間がかかったことから、地区の将来に不安を抱いた地元有志7名が発起人となり、小学校のPTA仲間などに声をかけ、スピーディに活動できる団体として、平成30年に「閑援隊」を結成。

2 主なむらづくりの内容

- 耕作放棄地を水田(20a)などに活用し、地域の農地を守るだけでなく、インバウンドの農業体験・農泊ツアー等の都市農村交流に取り組んでいる。
- 自立した運営をするための収入源として、耕作放棄地を整備し甘茶や米、麦の栽培を行い、整備した放置竹林を活用したメンマ作りも計画している。
- 旧閑馬小学校の跡地利用に隊としても携わり地域活性化につなげるため、閑援隊の法人化準備を進めるなど、閑馬地区全体を盛り上げる継続的な活動に取り組んでいる。



旧閑馬小学校



田植え



甘茶定植



インバウンド受け入れ